



市長モリテツの
ほっとトーク

September 2022

高齢者の体験を伝えていく

— 昭和から令和への語り部 —

三田市長 森 哲男

毎年、9月になると、市内の最高齢者と最高齢ご夫婦を、長寿のお祝いでお訪ねすることを楽しみにしていました。元気をいただけることに加え、ご本人やご家族から、長い人生における貴重な体験談を直接お聞きできるからです。一昨年来のコロナ禍の中で、今年もお会いできないのがとても残念ですが、これからもお元気で過ごされることを強く願っています。

さて、「若いまち」と言われてきた三田市でも急激に高齢化が進行しています。平成22年に15.7%だった高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は、10年後の令和2年には25.5%となり、さらに10年後の令和12年には35.1%になると推計されています。高齢化という言葉は、マイナスイメージで捉えられがちですが、元気で経験豊富な高齢者は社会の大切な人材です。特に75歳以上の高齢者の方々（市の人口の約12% ※令和4年7月1日時点）は、「激動の昭和」を家族や職場のために懸命に生き抜き、地域を守ってきた人々です。先の戦争体験や戦後復興を乗り越え

高度成長期を経てきた体験は、とても貴重なものです。この経験が今の若者や子どもたちにも語り継いでいただきたいと思っています。例えば、地域食堂、放課後子ども教室、こうみん未来塾などさまざまな機会を通じて、高齢者の方々に「語り部」として体験を話していただくのはどうでしょうか。

「悲惨な戦時体験を通じて平和の大切さ」を、「おせっかいとも言える隣近所の助け合いの良さ」を、令和の時代に生きる若者や子どもたちへ伝えてください。きっと心に響くものがあるはずですよ。高齢者ご自身にとっても、新たな生きがいになるのではないのでしょうか。

昭和の時代に比べ個人のプライバシーや価値観の多様性が尊重される令和の時代ですが、昭和の時代にあちこちの地域で見られた共生社会を、令和の時代にふさわしい形で実現していきたいと願っています。多くの元氣な高齢者が、若者や子どもと一緒に地域の共生社会の実現に向けて取り組んでいければ素晴らしいと期待しています。

Mayor's Photo Diary



7月20日 三田市出身のプロダンサーで、プロリーグ「Dリーグ」で活躍する丸岡陽向さんが表敬訪問



7月22日 農産物と客をバスで同時に運ぶ「貨客混載」で国土交通大臣表彰を受賞しました



8月1日 サンテレビ「キャッチ+」の生放送に出演し、三田の食やイベントなど魅力をアピール